

令和7年度 第1回 長崎県公共事業評価監視委員会

再評価対象事業

道建一9 道路改築事業
一般国道382号
(桎滝拡幅)

事業主体 長崎県

再評価の理由 再評価後変更(事業費・工期)



1. 審議経過

審議経過	再評価の理由	工期		事業費 (億円)	B / C	備考
		着工	完了			
当初 (H24新規)	—	H24	R1	15.0	1.84	【工事概要】 延長2.6km 幅員5.5(7.0)m
第1回審議 (R3年度)	事業採択後 10年経過 (事業費・工期)	H24	R7	30.0	1.23	【当初評価からの変更概要】 軟弱地盤対策による事業費増 法面・落石対策による事業費増 用地取得遅延による工期の延長 追加対策工事による工期の延長
第2回審議 (R6年度)	再評価後変更 (事業費・工期)	H24	R8	38.0	1.18	【前回評価からの変更概要】 土質改良の追加による事業費増 単価等の上昇による事業費増 用地取得遅延による工期の延長
第3回審議 (R7年度)	再評価後変更 (事業費・工期)	H24	R9	42.0	1.12	【前回評価からの変更概要】 締切矢板等の追加による事業費増 鉦さい撤去の追加による事業費増 追加工事による工期の延長

2. 目的・事業概要・これまでの経緯

◆目的

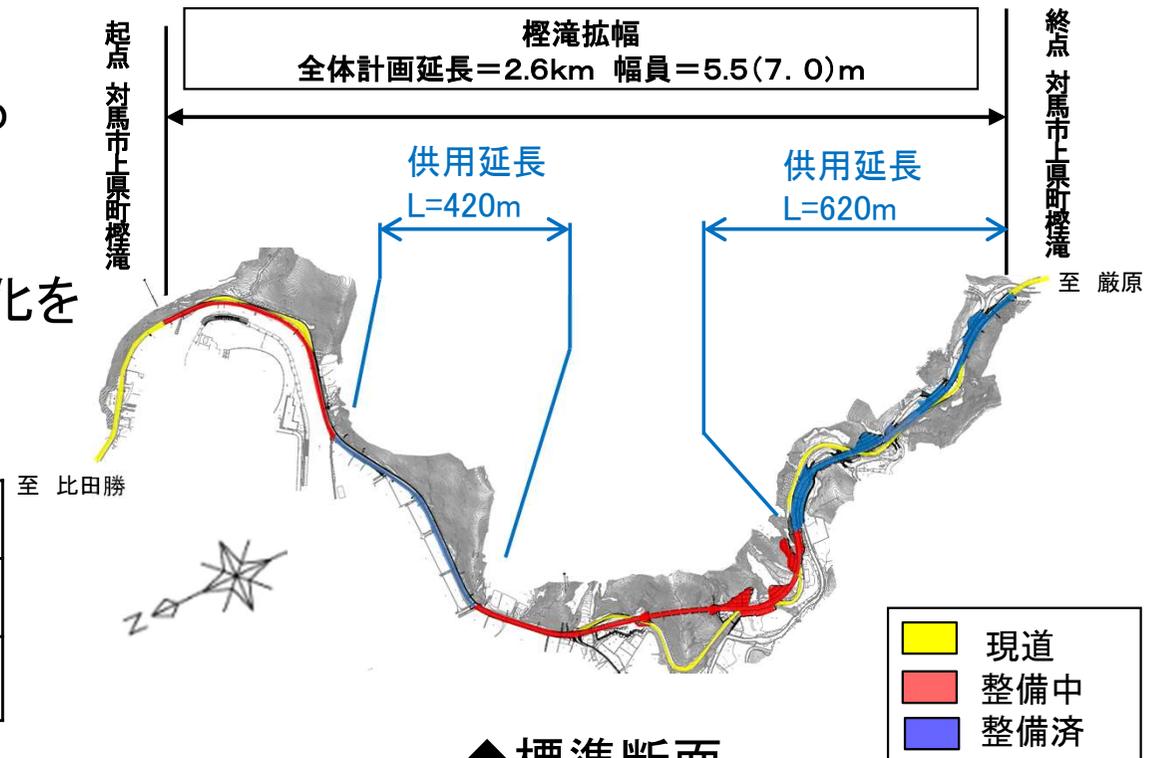
桧滝拡幅は、一般国道382号における延長約2.6kmの未改良区間であり、隘路及び線形不良区間の解消による走行性向上や緊急輸送道路の機能強化を目的としている。

◆事業概要

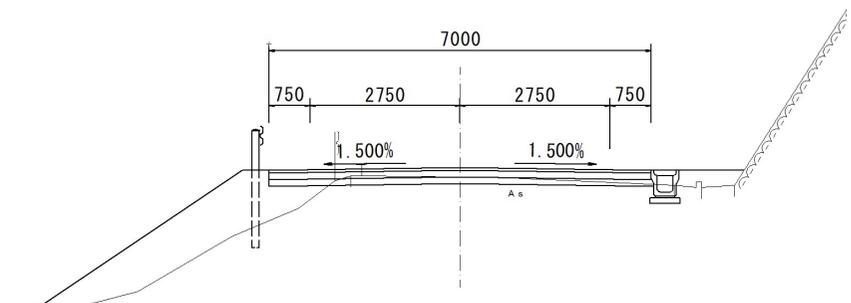
計画延長等	L=2.6km
幅員	W=5.5(7.0)m
計画交通量(R22)	1,997台/日

◆事業経過

平成24年度	事業化
平成26年度	用地買収着手
平成27年度	工事着手
令和6年度迄	1,040m供用開始



◆標準断面

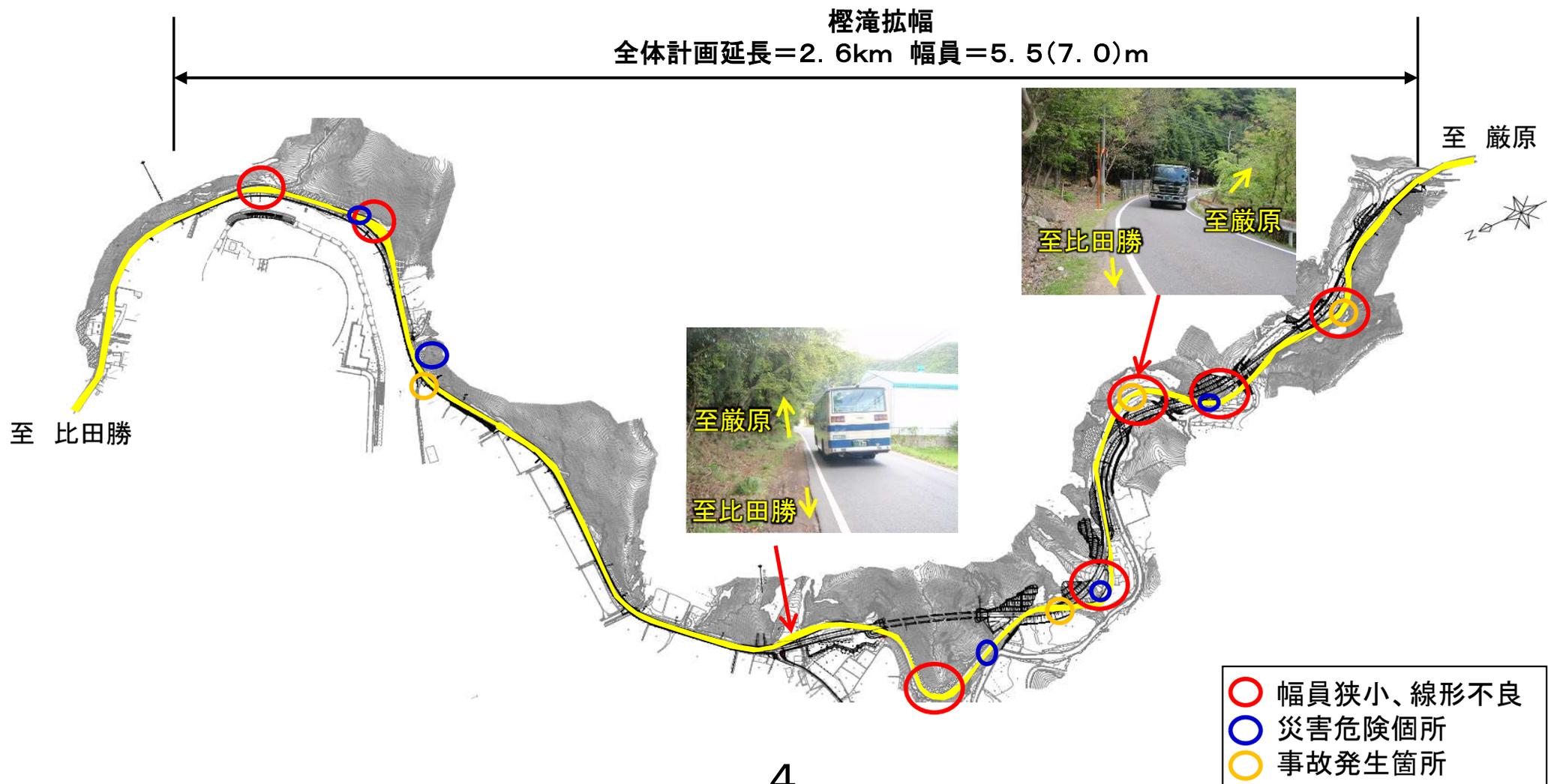


【令和7年3月末】
 事業進捗率 55%(事業費ベース)
 用地進捗率100%(面積ベース)

3. 事業の効果・必要性

<走行性の向上及び緊急輸送道路の機能強化>

- ・幅員狭小及び線形不良により通行に支障をきたしており、事故等も発生している。
- ・緊急輸送道路であるが、災害危険箇所がある。
- ・道路改良による通行車両の走行性の向上および交通安全性の向上が期待される。

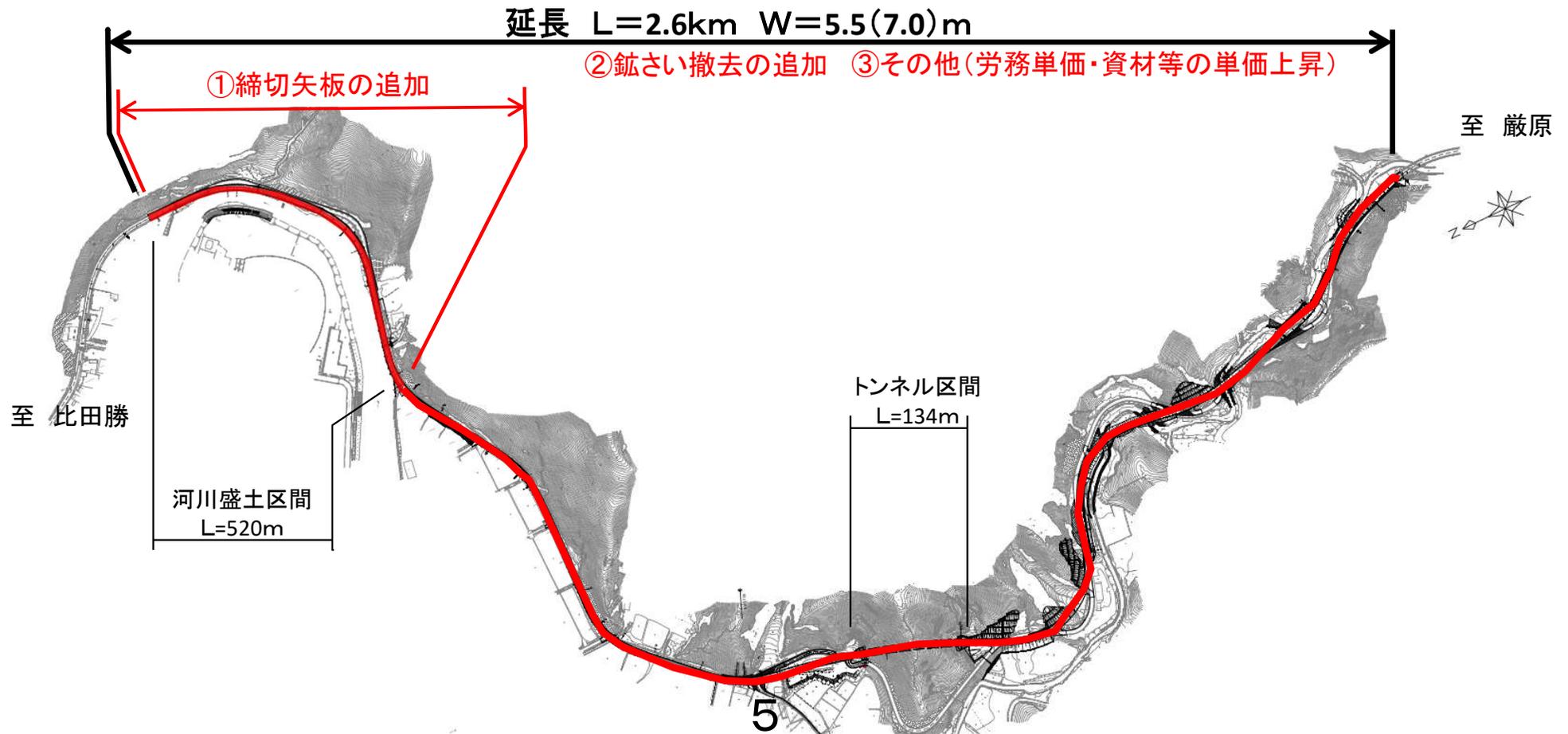


4. 事業の進捗状況(事業費の増加)

【事業費増】

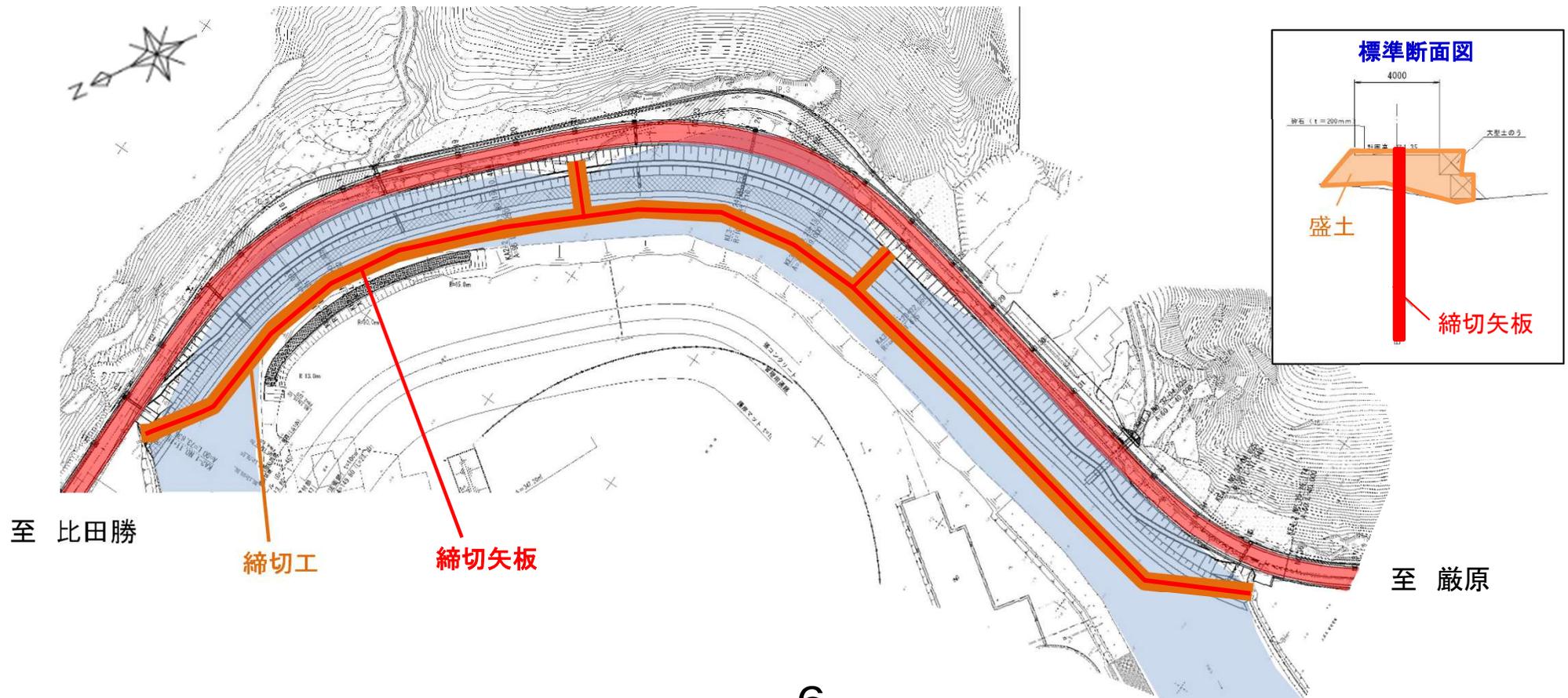
38.0億円(前回)
⇒42.0億円(今回)

事業費増の内容	増額	主な増額理由
①締切矢板の追加	約 2.1 億円	現地精査の結果生じた、締切に必要な矢板の追加
②鉱さい撤去の追加	約 0.9 億円	既存舗装掘削時に発生した、鉱さいの撤去および処分の追加
③その他	約 1.0 億円	労務・資機材単価等の単価上昇のため
計	約 4.0 億円	



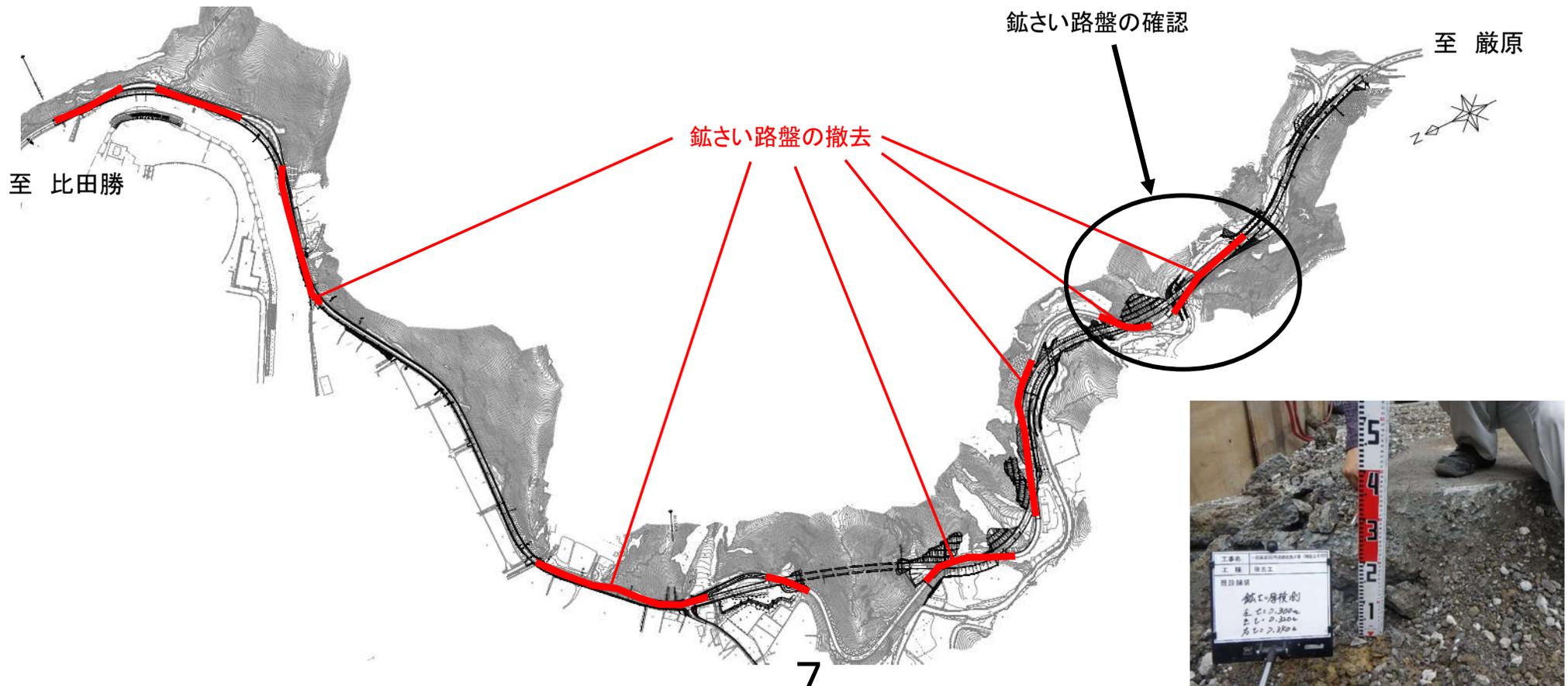
4. 事業の進捗状況(事業費の増加)

事業費増の内容	増額	主な増額理由
① 締切矢板の追加	約 2.1億円	河川盛土区間の地盤改良工について、当初、盛土による締切りで施工可能と想定していたが、工事の施工時において、想定以上に川底の堆積土砂の透水性が高く、潮位の影響と考えられる締切内への浸水があったため、締切矢板の追加による増工を行う。



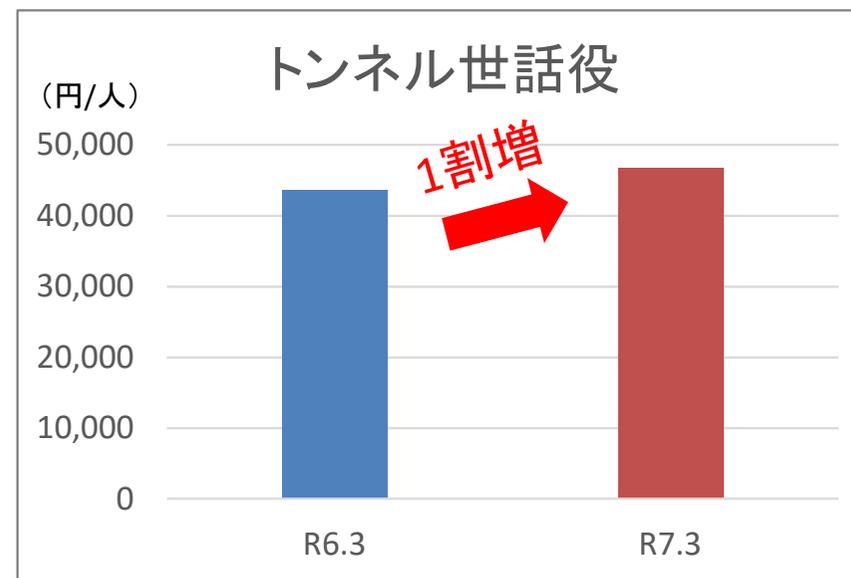
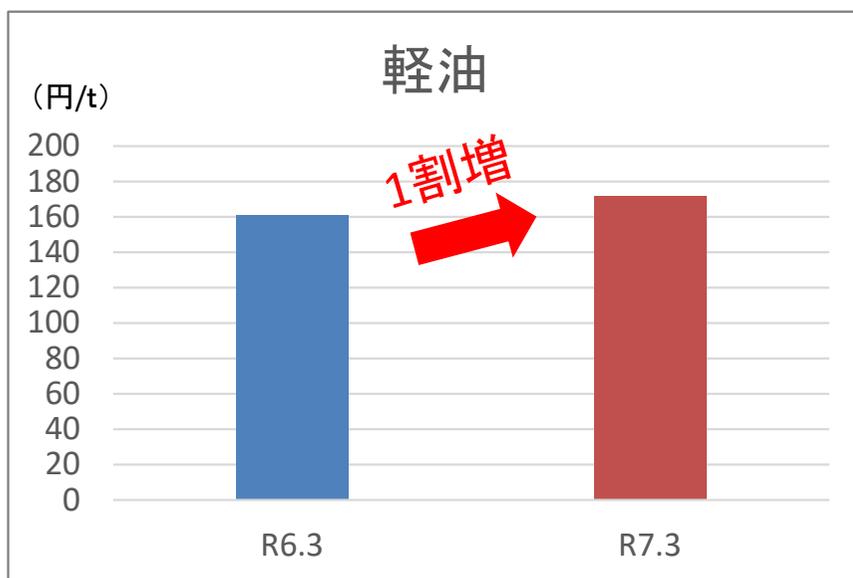
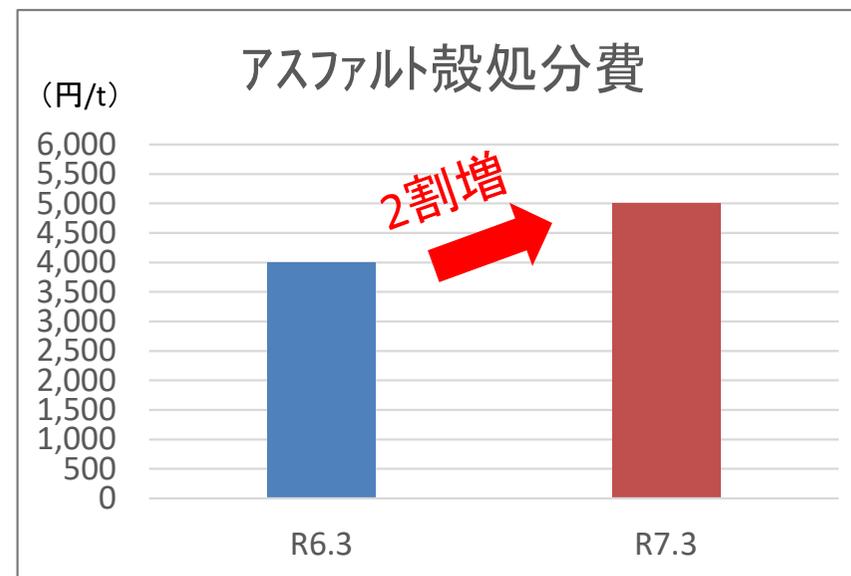
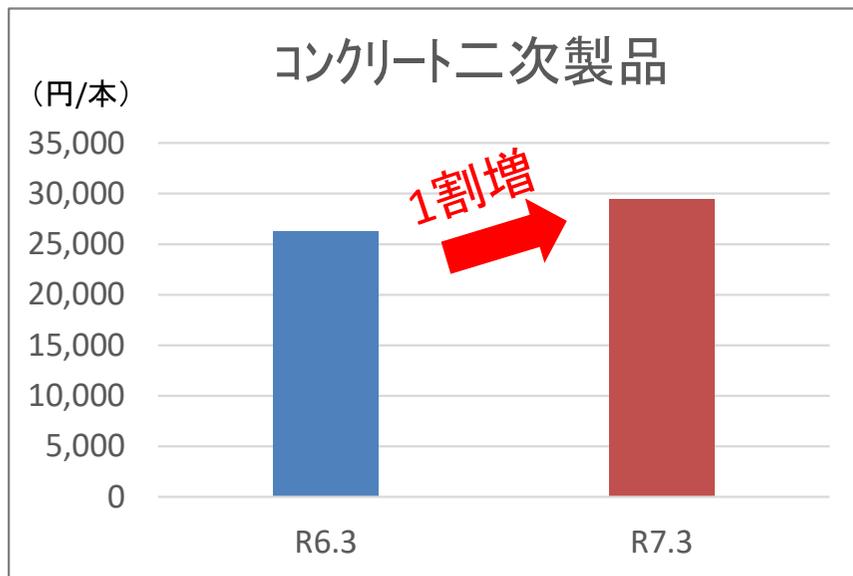
4. 事業の進捗状況(事業費の増加)

事業費増の内容	増額	主な増額理由
② 鉋さい撤去の追加	約 0.9億円	当初、現道部の舗装構成はアスファルト舗装と砕石による路盤によるものと想定していたが、令和6年度に実施した工事において、鉋さい路盤が確認され、処理施設への搬出が生じている。残る現道部の工事においても鉋さい路盤の発生が見込まれることから、鉋さいの撤去および処分費の増工を行う。



4. 事業の進捗状況(事業費の見直し)

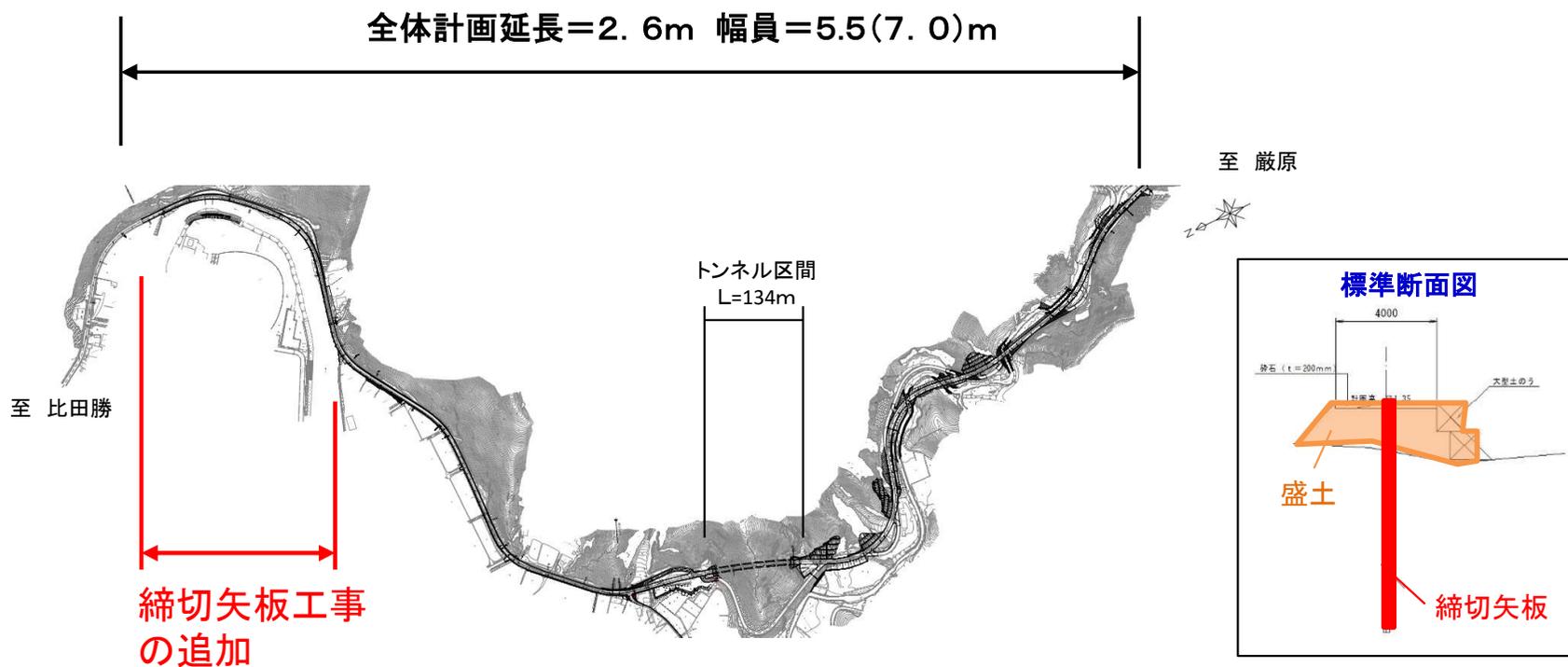
事業費増の内容	増額	主な増額理由
③その他	約1.0億円	社会情勢の変化による資材・労務費の単価上昇など



4. 事業の進捗状況(事業期間の見直し)

【完了工期】R8(前回)→R9(今回)

- ・仮設工事(締切矢板)の追加による事業期間の延長。



(前回)

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
測量・設計	■	■	■												
用地			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
工事				■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

(今回)

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
測量・設計	■	■	■													
用地			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
工事				■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

5. 事業の投資効果

◆ 費用対効果(B/C)

項目	前回評価 (令和6年度)	今回評価 (令和7年度)
残事業	1.93 = 37.08億円 / 19.24億円	1.88 = 35.65億円 / 18.93億円
全事業	1.18 = 50.56億円 / 42.70億円	1.12 = 54.90億円 / 49.18億円

[費用]

- ・道路整備に要する事業費、道路維持管理に要する費用

[便益]

- ・走行時間短縮、走行経費減少、交通事故減少便益

[プラス要因]

- ・費用便益分析マニュアルの改定
→原単位(価格)の増加

[マイナス要因]

- ・事業費の増
- ・工期の延長

◆ B/Cでは計測できない効果

- ・緊急輸送道路の防災機能強化

6. 対応方針(原案)

- ◆ 桎梏幅は、一般国道382号における延長約2.6kmの未改良区間であり、走行性の向上及び交通安全性の向上に寄与する事業である。
- ◆ 事業進捗率は事業費ベースで55%[23.1億円/42.0億円]であり、用地進捗率は100%となっている。(令和7年3月末現在)
- ◆ 「対馬市」から整備促進を要望されている。
- ◆ 事業費の増額、期間の延長はあるものの、費用対効果は見込まれる。

